

市長と語る タウンミーティング  
テーマ「災害に強いまちづくり」

日 時 平成24年3月14日 午後7時～  
会 場 旭分館（苗間旭町会）

参加者 7人

主な意見等（◆・・・参加者 ☆・・・市長）

- ◆特例債の件で、借入期間残り4年だがあと4年で返済しなくてもよくなるのか。  
☆個人のお宅と同じように、数年にわたり返済していく。その返済の7割は国が負担してくれる。3割分を返済していくことになるので、その返済能力の中で可能な限り恩恵を受けていきます。
  
- ◆規模の小さなまち同士の合併だったが、借金をしていって大丈夫なのか。  
☆規模が小さいからこそいろいろ効果がある。市長や、議員、職員などの数や事務などでも相当の効果があり、その効果を生かし行政運営を行っています。
  
- ◆特例債の7割の国負担分も、結局国の赤字国債発行につながると思う。国が権力を維持したいからだと思うが。  
☆明治の時代以来中央集権国家として形成されてきたが、今は地方分権という流れになっているが、国がコントロールする部分もあります。
  
- ◆寝たきりの要援護者など、災害時に避難させるには、車もあてにならないので、リヤカーでもない無理だと思う。
- ◆町会の役員もみんな70歳を超えていて苦勞している。若い人はなかなか引き受けてくれない。
- ☆地域力を高める事は、行政も手伝っていききたい。リヤカーや担架なども何十台も町会で持つことは、保管場所などの問題もあり難しい面もあるかと思うが、担架などは、物干し竿と毛布があれば簡単につくれる。そのような災害時対応のことなどもっと発信していかなければならない。リヤカーなどは、町会では、数台は持っているところもある。今後、自主防の支援の中で資機材等の充実を考えていきます。
  
- ◆防災無線を町会・自治会の班長などに持たせるなどし、役割としての責任を持ってもらうことも必要ではないか。  
☆方法論はいろいろ考えられる。理想に近づけられるようにしたい。

◆私たちは、災害時何に問題があるかということもなかなか想像つかない部分がある。ある地域をモデルにとって、時間帯による人口とかその他いろいろ調べてそれを出してくれると、何が問題なのかが分かりやすい。

☆そのような方法も考えたい。

◆富士見市と入りくんだ所もある。その様な地域は、整合性を持った計画が必要。

☆お互いによその市民だから助けないという訳にはいかない。連携していく必要があります。

◆この町会にも市の職員がいる。積極的に役員などやっていただきたい。

☆地域活動に積極的に参加するように話していきたい。

◆自主防災組織の組織率など、どうなっているのか。震災時に火災など各地で起きた時などそのような組織を使わざるを得ないと思う。外国人には、どのように伝えるのか。防災の関係について市役所の相談窓口はどこか。

☆自主防の実態について、調査を行ったところで、現在39の町会・自治会で組織されている。防災無線など今は、日本語でしか流していないのが現状です。防災関係については、くらし安全課が担当しています。また、講座なども行っているのご参加ください。